

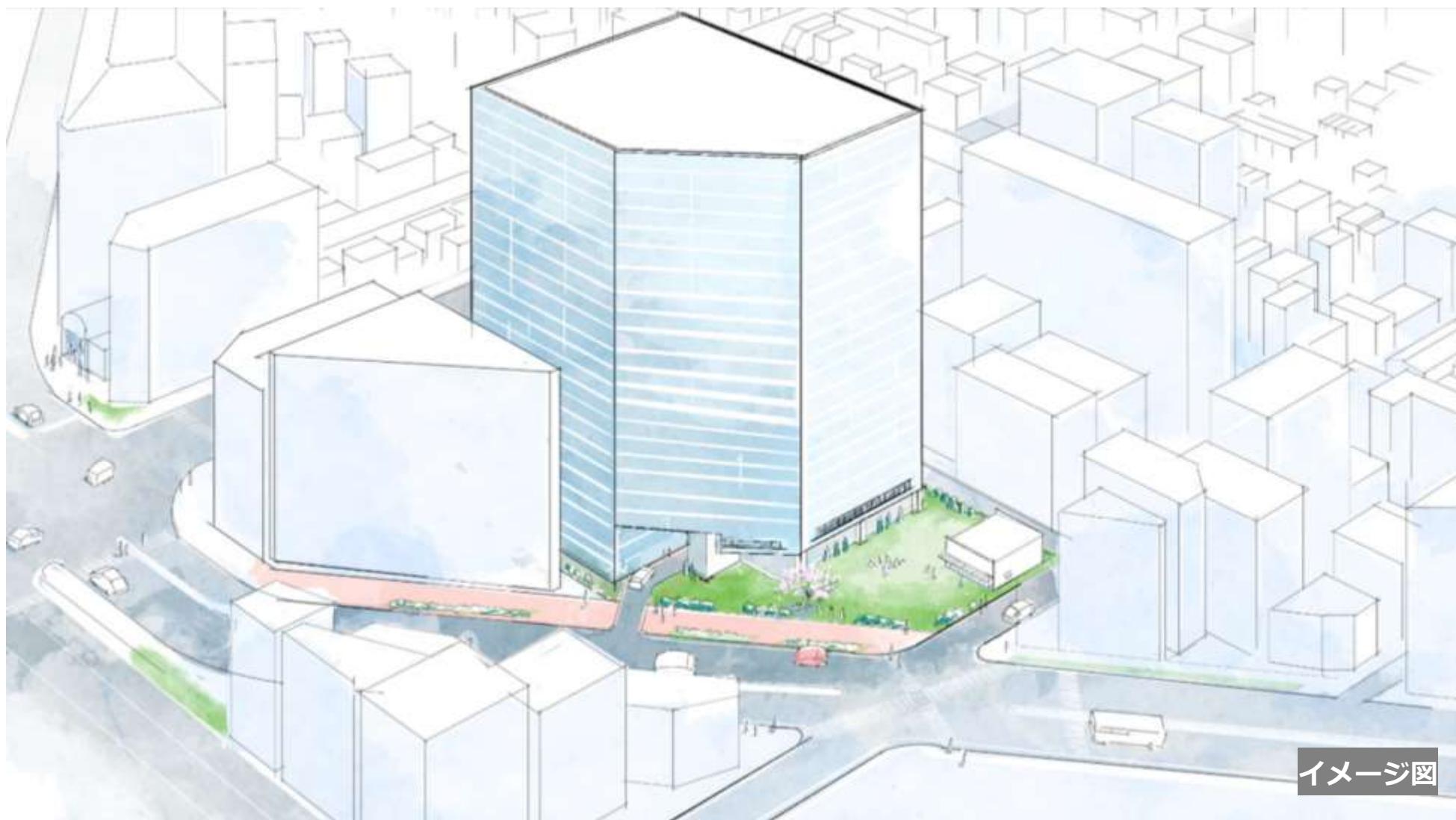
計画の概要： 地域防災・防犯機能強化に資するグリーンデータセンター事業
(東急不動産株式会社提案)

本敷地のプレゼンスと防災力を高める計画

● 社会インフラたるデータセンターの誘致

- システム基盤となるデータ機器を集約するデータセンターを建設することにより、貴市のDX戦略「Re-Design おおさか」の実現の一助となるデジタル社会を支える重要な社会インフラを抱えるエリアとして、**本エリアのプレゼンスを高めます。**
- また、再生可能エネルギーの導入等により「**グリーンデータセンター**」を整備し、ゼロカーボンおおさか（脱炭素社会）の実現への寄与を目指します。

建築概要	
建築面積	約 2,550 m ² (建蔽率約 63%)
延床面積	約 25,000 m ²
容積対象面積	約 23,050 m ² (容積率約 573%)
階数	地上 10 階塔屋 2 階建
最高高さ	約 78.5m
主用途	データセンター



イメージ図

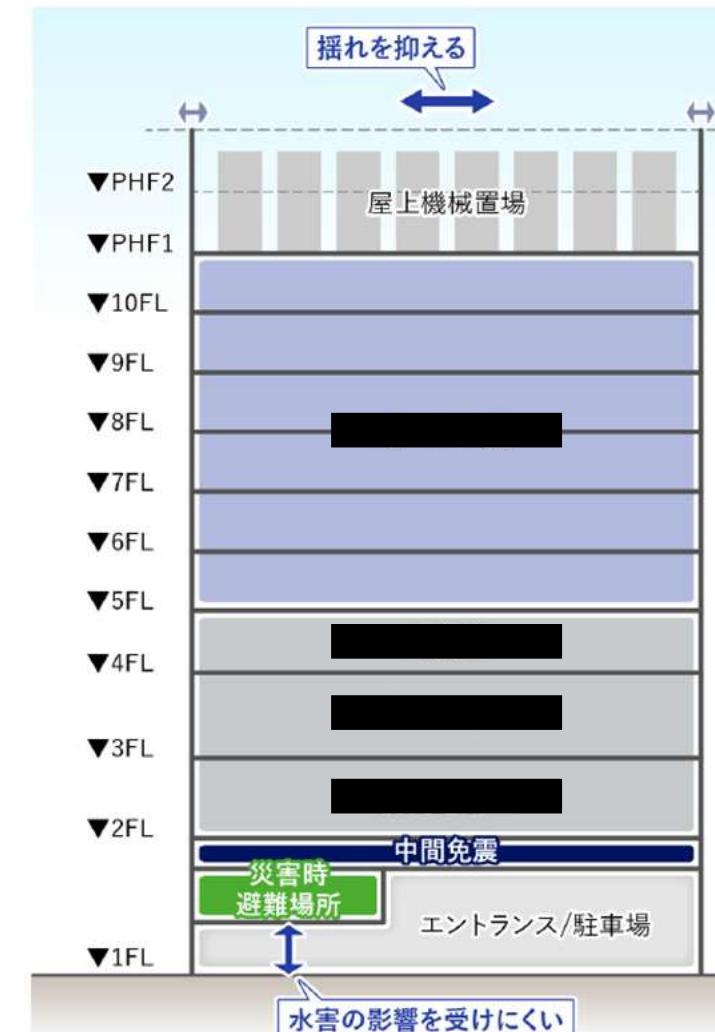
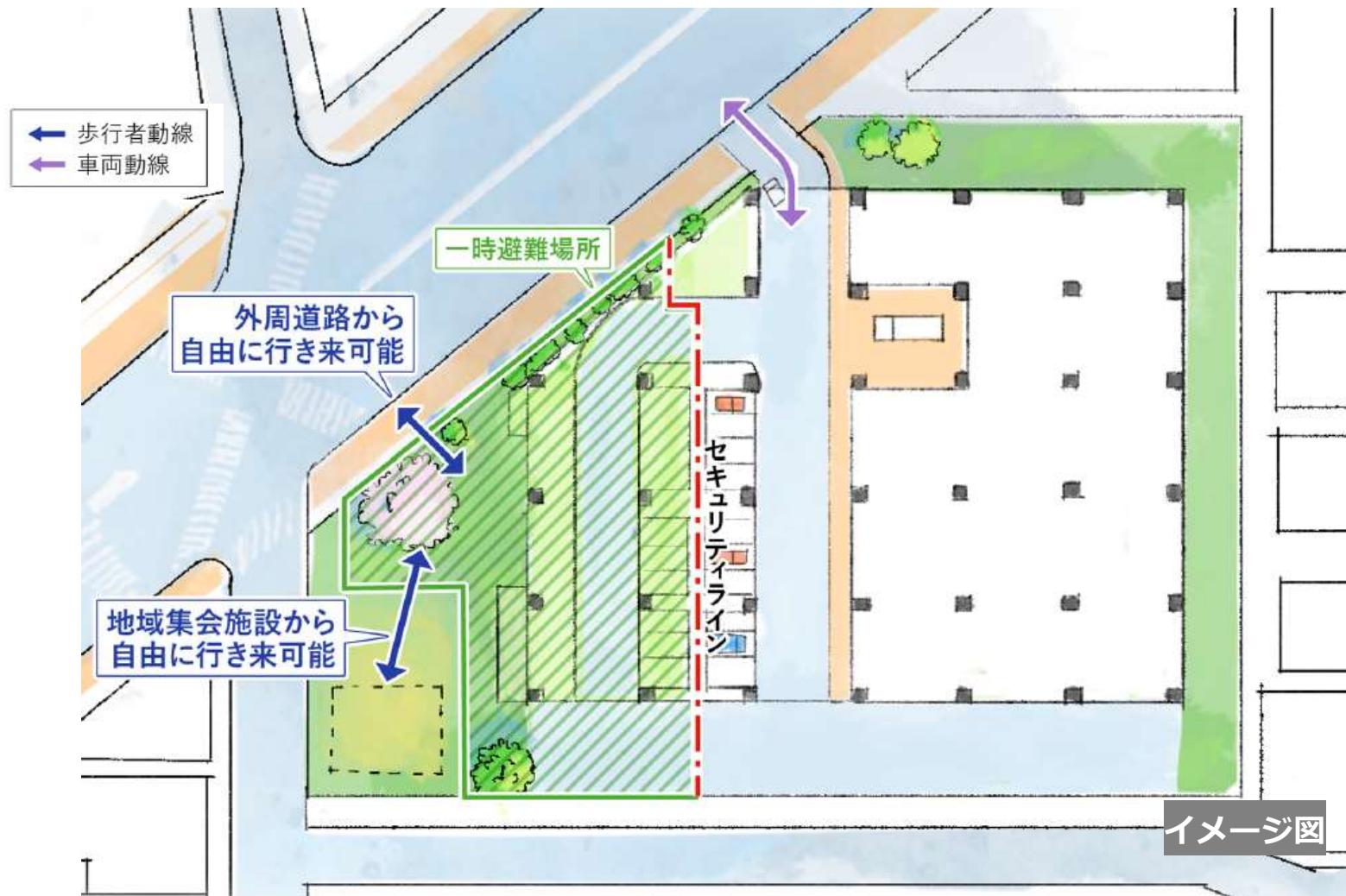
もと北天満小学校 計画提案概要 (全体計画)

今後変更となる場合があります

計画の概要： 地域防災・防犯機能強化に資するグリーンデータセンター事業
(東急不動産株式会社提案)

周辺環境への配慮

- 外壁の素材や色は、周辺の街並みと調和するよう計画します。また、騒音等にも配慮した設備計画をします。
- データセンターの従業員等の数は一般的なオフィスや商業施設と比較し少なく、また車両の出入りも少ないことが想定されるため、**周辺道路等への影響は発生し辛い**です。駐車場については、過剰とならないよう適切な台数を想定し整備します。
- 本敷地南側にはフェンス等を設置し、**南側道路へ車両が出入りできない計画**とします。



●セキュリティラインの確保

- データセンターは高度なセキュリティ確保が必要な性質上、1階ピロティ空間にてセキュリティライン（位置は配置図を参照）を設けます。常時閉鎖想定ではありますが、開閉可能な仕様とします。

もと北天満小学校 計画提案概要（地域防災拠点）

今後変更となる場合があります

計画の概要： 地域防災・防犯機能強化に資するグリーンデータセンター事業
(東急不動産株式会社提案)

一体的かつ機能的な防災拠点

● 災害に強い防災拠点を整備

- 災害に強いデータセンターの強みを活かしながら、**地域の災害レジリエンス強化**に資する防災拠点を整備します。

災害時避難所概要	
面積	約 380 m ²
想定収容可能人数	約 190 人

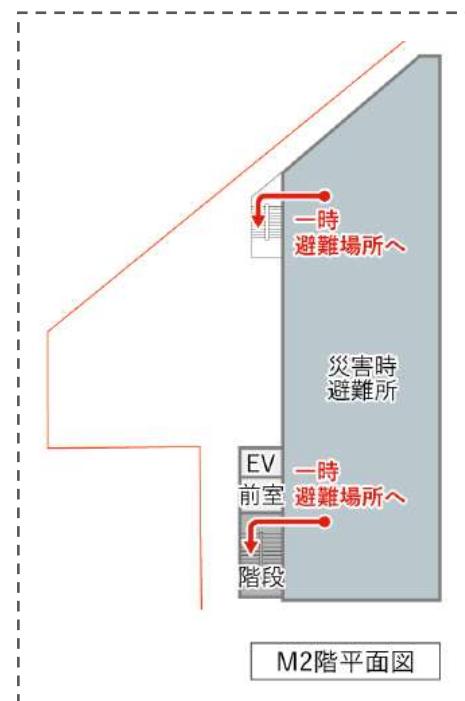
一時避難場所概要	
面積	約 900 m ²
想定収容可能人数	約 900 人

● 空中階への災害時避難所設置による水災に強い避難所

- 新築建物の中2階（動線はデータセンターからは独立）に災害時避難所を整備する事で、地上階に設置するよりも**水災に強い災害時避難所**を整備します。
- 発災時や防災訓練時においては、新築建物1階駐車場一部のピロティ空間を開放し、一部屋根ありの900 m²の一時避難場所を設けます。

● 各防災拠点がスムーズに連携可能

- 災害時、建物M2階の災害時避難所を開放し、広場空間と建物のピロティ部分の一部を一時避難場所として開放します。災害時避難所へは一時避難場所から**バリアフリー動線**（エレベーターによる、万が一電力の一般供給が停止した場合でも非常用発電機より電力供給予定であるため稼働）でアクセス可能です。また隣接する地域集会施設と一時避難場所がシームレスに繋がっており、**3つの防災拠点がスムーズに連携可能**となります。
- 災害時避難所では、避難生活の環境を良好に保つため、非常用発電機からの電力供給だけでなく、換気、照明等の整備、災害情報の入手に資するテレビ等の環境整備を検討します。
- 一時避難場所では、マンホールトイレやかまどベンチ等、**一時避難者の生活環境の維持に資する設備の設置**を検討します。



計画の概要： 地域防災・防犯機能強化に資するグリーンデータセンター事業
（東急不動産株式会社提案）

地域の方々の交流拠点

● 地域のコミュニティ活動の継続を実現

- これまでもと北天満小学校跡地にて北天満地域運営委員会が地域のコミュニティ形成のために取り組まれてきたイベントを、開発後も継続的に実施できるよう、地域集会施設と本敷地西側の広場を**一体的に利活用可能な計画**とします。
- 最大限広く活用できるよう、広場空間の外周部に植栽（桜の木の移植を検討します）をする計画とし、地域集会施設側の敷地と合わせて利用する事で、**イベント利用をしやすい空間**とします。
- 広場空間は地域集会施設側の敷地との間には境界柵等は設けず、また今後整備される予定の地域集会施設と親和性のある仕上げを検討し、視覚的にも一体的な敷地と捉えられる空間を形成します。



まちの歴史を継承する外構計画

● 地域コミュニティ活動の中心であった広場を継承

- もと北天満小学校のグラウンドで行われていた地域活動を継続できるように広場を整備します。

● まちのシンボルの継承

- TPM工法により既存の**桜の木**の移植を検討します。
※樹木医の診断結果によっては移設不可の可能性がります。
- もし移植が不可能であった場合についても、接ぎ木をする事で地域の方が生育、将来的に植樹が可能とする等、まちのシンボルの継承が可能となるようなご提案を検討させていただきます。
- 既存建物解体の際は、**学校銘板・校章の保存および活用**方法を検討します。

イメージ図

TPM工法…専用機械による大径木移植技術

⇒根鉢周りを掘削した後に、根鉢をしっかりとつかみ運搬します。

